

.....
 2022年8月の輸送実績の概要(内航輸送主要元請オペ58社)

■**貨物計 前年同月比 101%、前々年同月比 105%、前月比 96%(16,526 万トン)**

前年同月比(増加品目)雑貨、自動車、セメント
 (減少品目)鉄鋼、燃料、紙・パルプ
 (変わらず)原料

鉄鋼 19%、原料 25%、自動車 18%、雑貨 14%、セメント 15%、燃料(石炭・コークス)8%、紙・パルプ 1%

■**鉄鋼 前年同月比 94%、前々年同月比 124%、前月比 101%(315.2 万トン)**

自動車の供給制約の影響による出荷の減少が継続中となっているが、やや持ち直しが見られる。

■**原料(石灰石・スラグ) 前年同月比 100%、前々年同月比 107%、前月比 104% (414.1 万トン)**

石灰石については前年の製鉄所の休止から輸送量の減少が続いている一方で、金属鉱は大きく増加しており、全体としては前年同月水準となった。

石灰石前年比 3%増、スラグ 12%減、非金属鉱 7%増、
 金属鉱約 2 倍増、その他原材料 7%減

■**燃料(石炭・コークス) 前年同月比 87%、前々年同月比 97%、前月比 99% (138.0 万トン)**

石炭については礫子石炭火力発電所のトラブルのほか一部で中国電力の石炭火力発電所向けの輸送が春から減少しており影響が見られている。コークスは増加となった。

石炭は前年比 20%減、前月比 4%増、コークスは前年比 14%増、前月比 5%減
 燃料に占める割合：石炭 71%、コークスが 29%

■**紙・パルプ 前年同月比 90%、前々年同月比 97%、前月比 101%(13.1 万トン)**

古紙や段ボール原紙は好調に推移している一方で、その他の紙製品について生産が振るわず減少が続いている。

■**雑貨 前年同月比 107%、前々年同月比 113%、前月比 95%(233.5 万トン)**

コロナ禍で初めての行動制限のない夏休みシーズンを迎え、飲料水や食料品の輸送が高い水準で推移しているほか、大雨の影響により奥羽本線で JR 貨物の運休があり、トレーラーで野菜を輸送するなど RORO 船の利用が一部で見られた。

コンテナについては円安を背景とした自動車の CKD 輸出の横持ち輸送は好調となっている。
 一般雑貨 1%増、コンテナ 16%増、塩 34%増

■自動車 前年同月比 108%、前々年同月比 93%、前月比 80%(295.8 万トン)

自動車部品欠品の影響が続いている中で生産が徐々に回復してきているが、前年同月の輸送量が低い水準であったことから、反動による増加となった。

■セメント 前年同月比 106%、前々年同月比 98%、前月比 100%(242.9 万トン)

セメント需要は全国的に出荷の回復が見られた。

■油送船計 前年同月比 101%、前々年同月比 104%、前月比 101% (909.7 万 kl、トン)

前年同月比 (増加品目) 黒油、白油、高温液体

(減少品目) ケミカル、高圧液化、耐腐食

(変わらず)

輸送量の割合は白油 54%、黒油 26%、ケミカル 8%、高圧液化 5%、耐腐食 5%、高温液体 1%

■黒油 前年同月比 107%、前々年同月比 115%、前月比 105%(240.0 万 kl)

前月まで見られた定期修理が終わり、猛暑による石油火力発電所向けの輸送も旺盛となった。

■白油 前年同月比 103%、前々年同月比 98%、前月比 100%(494.0 万 kl)

行動制限のない夏休みシーズンを迎え、帰省や旅行等で航空燃料やガソリンの需要が増加したほか、冬季に向けた灯油の備蓄輸送も活発化している。

■ケミカル 前年同月比 91%、前々年同月比 121%、前月比 99% (75.2 万トン)

引き続き、プラント工場の定期修理による影響のほか中国の需要低迷に伴う製品輸出の減少が見られている。

■高圧液化 前年同月比 87%、前々年同月比 104%、前月比 97% (49.2 万トン)

(液化石油ガス(LPG)81%、エチレン 5%、塩ビモノマー(VCM)6%、液体アンモニア 1%、アセトアルデヒド 1%、その他の高圧ガス・プロピレンオキシド 6%)

LPG は定期修理に入った影響で減少している。塩ビモノマー、エチレンも減少しており全体としても減少の結果となった。

エチレンは変わらず、LPG は 14%減、塩ビモノマーは 28%減、液体アンモニアは 14%増

■高温液体 前年同月比 104%、前々年同月比 95%、前月比 116%(9.8 万トン)

(*アスファルト 6.6 万トン(67%)、その他の高温液体 2.6 万トン(27%)、硫黄 0.6 万トン(6%)

前月まで見られたアスファルトの買い控えは今月については見られず輸送量は増加したほか、硫黄も増加が見られた。ただし、内容としては前年同月の輸送水準が低かったため反動増とも言える。

アスファルトは前年比 14%増、その他の高温液体は 18%減、硫黄は 53%増

■耐腐食 前年同月比 92%、前々年同月比 104%、前月比 101% (41.6トン)

(硫酸(肥料、繊維、製紙)、苛性ソーダ(石けん、紙パルプなど)、その他の腐食性液体、
その他の化学品)

(苛性ソーダは 19 万トン(45%)、硫酸は 13 万トン(32%)、その他の腐食性液体は 10 万トン(23%))

前年比で苛性ソーダは 5%減、硫酸は 9%減、その他の腐食性液体は 14%減

耐腐食の約半分を占める苛性ソーダの落ち込みから、耐腐食全体が減少の結果となった。
硫酸、その他の腐食性液体についても減少が見られた。

=====
★天候

気象庁 2022 年（令和 4 年）8 月の天候

北・東日本日本海側と北日本太平洋側では、上旬から中旬にかけて前線や湿った空気の影
響を受けやすかったため月降水量がかなり多く、月間日照時間が少なかった。3 日から 4
日にかけては北・東日本日本海側の各地で線状降水帯が発生するなど記録的な大雨となっ
た所があった。また、中旬には停滞前線の影響などで北・東日本日本海側では旬降水量が
記録的に多くなった。東日本太平洋側では、暖かく湿った空気の影響を受けやすく、また、
13 日に伊豆半島に上陸した台風第 8 号の影響でまとまった雨が降ったため、月降水量が多
く、月間日照時間は少なかった。西日本では、上旬を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れ
た日が多く、その後も暖かい空気に覆われたため月平均気温が高かった。沖縄・奄美は、
太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかったため、月平均気
温がかなり高く、月降水量がかなり少なく、月間日照時間がかなり多かった。

平均気温：沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高かった。北・東日本で平年並だった。

降 水 量：北・東日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側で多かつ
た。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。西日本日本海側と西日本太平洋側では平年並
だった。

日照時間：沖縄・奄美でかなり多かった。一方、北・東日本日本海側と北・東日本太平洋
側で少なかった。西日本日本海側と西日本太平洋側では平年並だった。

平年気温差

北日本+0.5℃ 東日本+0.5℃ 西日本+1.0℃ 沖縄・奄美+0.9℃

(2022/9/30 鉄鋼連盟「普通鋼鋼材需給速報」より)

粗鋼生産は 733.9 万トンと前月比 0.2%増、前年同月比 7.4%減となり、前年同月比では 8
カ月連続の減少となった。

普通鋼鋼材生産（速報）は、前年同月比 8.9%減の 486 万トンと 8 カ月連続の減少となつ
た。

普通鋼鋼材国内向け出荷は、前年同月比 3.0%減の 295 万トンと 7 カ月連続の減少となつ
た。輸出向け出荷は前年同月比 13.8%減の 162 万トンと 3 カ月連続の減少となった。

普通鋼鋼材国内在庫は、599 万トンと 3 ヶ月ぶりの増加。なお、国内在庫率は前月末比 25.2
ポイント増加の 203.1%となった。

(鉄鋼連盟の「鉄鋼需給の動き」)

7月の普通鋼鋼材用途別受注高は

前年比で建設用 89.4%。このうち建築用は前年比 96.0%、住宅用は 88.6%、土木用 83.7%。製造業用 90.1% (産業機械用が 89.8%、電気機械用が 101.4%、家庭用業務用機器用が 125.6%、船舶用が 106.4%、自動車用が 85.6)。内需計は 90.4%。輸出 86.3%。

(石灰石鉱業協会「月例需給分析」)

8月(速報)は生産量が前年比 2.5%増(1,094 万トン。国内出荷量は 1,036 万トン、0.7%増。

8月(速報)の用途別出荷量は、セメント用は 0.9%減、骨材用は 5.3%増、道路用は 4.4%増、鉄鋼用は 4.9%減

鉄鋼の輸送手段は船舶輸送が 8割を占めている。

*出荷量の比率は、セメント用 45%、骨材用 24%、鉄鋼用 14%の割合となっている。

(日本製紙連合「紙・板紙需給速報」)

2022年8月 紙・板紙需給速報

新聞用紙の国内出荷は前年同月比 8.4%減、15ヶ月連続のマイナス。印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比 1.1%増、2ヶ月ぶりのプラス。非塗工紙を除きプラス。輸出は 11.2%減、2ヶ月連続のマイナス。包装用紙の国内出荷は前年同月比 4.6%増、17ヶ月連続のプラス。輸出は 2.7%増、3ヶ月連続のプラス。段ボール原紙の国内出荷は前年同月比 6.2%増、2ヶ月ぶりのプラス。輸出は 23.9%増、2ヶ月連続のプラス。白板紙の国内出荷は前年同月比 3.7%増、4ヶ月連続のプラス。衛生用紙の国内出荷は前年同月比 6.3%増、10ヶ月連続のプラス。

(2022/09/26 琉球新報)

沖縄の入域観光客数、8月は 64万800人 前年同月比 2.2倍 2年5カ月ぶりに外国人客
国内客はコロナ禍前の9割まで回復

沖縄県文化観光スポーツ部は 26日、8月の入域観光客数が前年同月比 2.2倍の 64万800人だったと発表した。35万2600人の増加で、前年同月比としては今年7月(35万7400人)に次ぐ過去2番目に多い増加数だった。

韓国の格安航空会社(LCC)・ティーウェイ航空がソウル―那覇便を一時的に再開したのに伴い外国人客は 100人となり、2年5カ月ぶりにゼロから脱却した。新型コロナウイルス感染拡大前の 2019年8月比では 37.2%(38万400人)の減少だった。

JR貨物 輸送動向について(2022年8月分)

コンテナは、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷に加えて、北海道・東北・北陸地区を中心に大雨により一部不通区間が生じたものの、前年に山陽線等が不通となっていた反動により、農産物・青果物を除く全ての品目で前年を上回った。※なお、不通となった奥羽線について、船舶・トラックによる代行輸送を実施した。

積合せ貨物は、2021年10月からのブロックトレイン運転開始等により前年を上回ったほか、食料工業品は、清涼飲料水を中心に前年の輸送障害の反動増となった。化学工業

品、化学薬品及び自動車部品についても、前年の輸送障害の反動により増送となった。一方、農産品・青果物は、前線停滞による各地区大雨に伴い一部不通区間が生じた影響により前年を下回った。コンテナ全体では前年比 112.3%となった。

車扱は、石油が新型コロナウイルス感染症の影響緩和によりガソリンを中心に需要増となったほか、前年に中央西線が不通となっていた反動により前年を上回った。車扱全体では前年比 110.8%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比 111.8%となった。

※(主要オペ以外の事業者コメント)

JR 貨物の代替輸送：秋田港～石狩港 499GT 4隻で 8/23～9/15 代替輸送を実施した。

(2022/09/17 乗り物ニュース)

貨物列車・日本海ルート「船舶代行」終了 秋田～青森はトラック輸送に切り替え

8月初頭の台風により鉄道寸断続く貨物列車・日本海ルート「船舶代行」終了

JR 貨物は 2022 年 9 月 16 日（金）、貨物輸送のいわゆる「日本海ルート」について、8月の台風被害をふまえた現在の状況を発表しました。

奥羽本線は大館付近で運休が続き、秋田～青森では貨物輸送が寸断されています。これに伴い、秋田～北海道では 8 月 23 日から「船による代行輸送」を行っていましたが、これを 9 月 15 日で終了。21 日からは、秋田貨物駅～東青森駅間でトラック輸送を開始するとしています。

秋田～青森間のトラック代行輸送は 1 日あたり片道最大 80 個。船舶代行の時と同じ輸送量です。JR 貨物の発表では、日本海ルートの貨物コンテナ輸送は、以下の計画で実施しているとのことです。

- ・ 関西（百済・吹田）～秋田：列車輸送（20 両、100 個）
（片道 80 個）
- ・ 秋田～東青森：トラック輸送（片道 80 個）
- ・ 秋田～大館：トラック輸送（片道最大 5 個）
- ・ 大館～東青森：列車輸送（11 両、55 個）
- ・ 秋田～仙台：トラック輸送（片道最大 5 個）、列車輸送（東青森経由、上記と同じ便）
- ・ 東青森～札幌（19 両、95 個）・ 関西（百済・吹田）～東北本線経由～札幌（臨時便、20 両、100 個）

2022 年 8 月 1 日 トヨタホームページより

8 月の国内工場の稼働について

新型コロナウイルス感染拡大等に伴う部品供給不足による生産計画の度重なる見直しにより、お待ちいただいているお客様や、仕入先及び関係の皆さまにはご迷惑、ご不便をおかけし、改めて心からお詫び申し上げます。

半導体不足による 8 月の国内工場の稼働停止について（8 月生産計画について）公表いたしましたが、一部工場とラインの稼働停止日程を縮小いたします。これは、愛知県を中心とした豪雨被害による影響で、一部の工場／ラインが停止していた期間に使用予定であった部品を活用するものです。8 月グローバル生産台数 70 万台程度に、変更はございません。

半導体不足およびコロナウイルス感染拡大による影響等により、先を見通すことが依然困難な状況のため、生産計画が下振れする可能性もありますが、部品供給を精査し、できるだけ急減産を抑えながら、1日でも早く1台でも多くお客様にお届けできるよう、引き続き、努力してまいります。

(2022/09/01 日経新聞)

8月の国内新車販売9%減 半導体不足やコロナ影響

8月の国内新車販売台数は前年同月比9・3%減の29万42台となり、14カ月連続で前年を下回った。日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車協会連合会が1日発表したデータを集計した。長期化する半導体の供給不足や新型コロナの感染拡大に伴う部品調達難により生産が滞ったことが響いた。

軽自動車以外の自動車（登録車）は13・3%減の17万9075台。12カ月連続で前年を下回った。8月としては統計を始めた1968年以降、2番目の低水準だった。トヨタ自動車は7万7028台で26・4%減、日産自動車は3・5%減だった。一方、3・4%増となったホンダなど5社がプラスとなった。

(2022/09/29 NHK 広島)

マツダ 8月の国内生産車 去年の2.2倍に

自動車メーカーのマツダが8月、国内で生産した車の台数は、半導体不足や大雨の影響などで大幅な減産となった去年の同じ月と比べておよそ2.2倍に増えました。

マツダによりますと、8月、国内で生産した車は合わせて6万1372台で、半導体不足や大雨などの影響で工場の操業停止が相次いだ去年の同じ月と比べておよそ2.2倍増え、3か月連続で前の年を上回りました。

工場別では広島県の本社工場が去年の同じ月と比べて2.5倍増えて4万5367台、山口県の防府工場が56%増えて1万6005台でした。

一方、8月、国内で販売した新車は合わせて1万2337台で、去年の同じ月より18%増えて3か月連続で前の年を上回りました。

世界的な半導体不足が続いているものの、マツダは半導体の調達が改善傾向にあることなどから「国内の生産は回復基調にある」としています。

(2022/10/06 日刊工業新聞)

エンジン不正の日野自動車が苦境、トラック販売7割減

エンジン不正問題に揺れる日野自動車の9月の普通トラック（積載量4トン以上の大型・中型トラック）の国内販売台数が、前年同月比71・1%減と大幅に落ち込んだことがトラック業界関係者の調査で分かった。大型トラックの全車種、中型トラックの一部車種の出荷を3月から停止していることが影響した。一方、小型トラックは10月5日にも生産を再開する。当初の計画より2日遅れる見込み。

業界関係者がまとめた、日野自の9月の販売台数は大型が同73・6%減、中型が同67・2%減だった。合計の販売台数はいすゞ自動車、UDトラックス、三菱ふそうトラック・バスに次ぐ4位に下落。減少率は前月から2ポイント拡大した。

ただ、いすゞと三菱ふそうも半導体や部材不足が響いて前年割れの状態が続いている。4社合計の普通トラックの国内販売台数は同 36・0%減で、11 カ月連続で前年同月の実績を下回った。UD のみ、中型、大型ともに前年同月の実績を上回った。

4—9 月期の普通トラックの販売台数は、日野自の不正問題が影響し、前年同期比 37・7%減と大きく下落した。日野自が同 59・9%減、いすゞが同 31・6%減、三菱ふそうが同 26・7%減と軒並み落ち込んだものの、半導体不足の影響が軽微だった UD のみ前年同期の販売実績を上回った。

日野自は国内向けトラックの生産を 8 月 22 日からほぼ停止していたが、10 月 5 日に小型トラックの生産を再開する予定。11 月 1 日に中型トラックの一部車種の生産も再開する見通しだ。

小型トラックと中型トラックの一部車種は 9 月中旬に出荷を再開。これらの 2022 年 3 月期の国内販売台数は 3 万 4000 台超で、バスを含めた国内年間販売台数の約 6 割に上る。

ただ、大型をはじめとする残りのトラックは、エンジンや車両の型式指定が取り消されているため出荷再開のめどが立っていない状況で、当面苦しい状況が続きそうだ。

(2022 年 10 月 6 日 経済産業省)

国内向け出荷は、3 か月連続の前月比上昇

2022 年 8 月の鉱工業出荷は、季節調整済指数 96.6、前月比 1.9%と、3 か月連続の上昇となりました。4 月、5 月と中国でのロックダウンの影響などを受けて、低下しましたが、6 月はロックダウンの解除などを受けて上昇に転じ、7 月は部材供給不足の影響が緩和したことなどから、輸送機械工業を中心に上昇しました。8 月も引き続き部材供給不足が緩和され、全体として 3 か月連続で上昇しました。内訳を見ると、内需 (国内向け出荷) は前月比 3.9%と 3 か月連続の上昇、外需 (輸出向け出荷) は同マイナス 5.4%と 3 か月ぶりの低下となりました。

出荷水準をみると、2022 年 8 月の指数値は、国内向けが 94.3、輸出向けが 102.9 となりました。感染症が拡大する直前の 2020 年 1 月の指数値は、国内向け、輸出向けともに 97.1 でしたが、それらと比較すると、輸出向けについては、感染症拡大以前の水準を超えています。国内向けについては、足下の動きは強いものの、いまだ出荷水準は低い状態が続いています。

(2022/09/29 日経新聞)

セメント国内販売量、8 月 4.9%増

セメント協会 (東京・中央) がまとめた 8 月のセメントの国内販売量は 294 万 9821 トンと、前年同月に比べ 4.9%増加した。2 カ月ぶりに前年同月を上回った。民間需要が好調で、東北と北陸を除く 9 地区で前年を上回った。

茨城県などの関東 2 区は 11%増えた。原子力発電所関係の耐震工事向けの需要が引き続き好調だ。

東京などの関東 1 区も 2.6%増えた。前年に東京五輪・パラリンピックによる交通規制などで生コンの出荷が減少した。その反動でセメントの荷動きが増加した。

(セメント協会「需要実績」)

8月の国内生産は前年同月比98.1%、4,443千t。2ヶ月連続で前年を下回った。国内販売は2,950千t、前年比104.9%と2ヶ月ぶりで前年を上回った。

東北、関東一、北陸以外は前年比プラス。*内航輸送は国内販売の数量を参考にする。

「石油統計速報」(資源エネルギー庁資源燃料部政策課より)

2.燃料油の生産

燃料油の生産は1,328万kl、前年同月比112.6%と16ヶ月連続で前年を上回った。油種別にみると、ガソリン、ナフサ、ジェット燃料油、灯油、軽油及びB・C重油は前年同月を上回ったが、A重油は前年同月を下回った。

3.燃料油の輸入、輸出

燃料油の輸入は292万kl、前年同月比89.8%と7ヶ月連続で前年を下回った。輸出は282万kl、前年同月比130.2%と8ヶ月連続で前年を上回った。

4.燃料油の国内販売

燃料油の国内販売は1,284万kl、前年同月比105.6%と3ヶ月連続で前年を上回った。油種別にみると、ガソリン、ナフサ、ジェット燃料油、軽油、A重油及びB・C重油は前年同月を上回ったが、灯油は前年同月を下回った。

5.燃料油の在庫

燃料油の在庫は887万kl、前年同月比90.6%と7ヶ月連続で前年を下回った。油種別にみると、ジェット燃料油は前年同月を上回ったが、ガソリン、ナフサ、灯油、軽油、A重油及びB・C重油は前年同月を下回った。

★国内販売 2022年4月からLNGは対象外(エネ庁統計担当北原氏 3501-2773)

前年比で、ガソリンは101.5%、ナフサは103.8%、ジェット燃料油は114.4%、灯油は90.2%、軽油は107.7%、A重油は112.0%、B・C重油は134.2%、アスファルトは100.0%、LPGは128.0%

前月比で、ガソリンは102.9%、ナフサは110.8%、ジェット燃料油は101.0%、灯油は115.3%、軽油は101.2%、A重油は100.2%、B・C重油は125.8%、アスファルトは113.2%、LPGは116.1%